



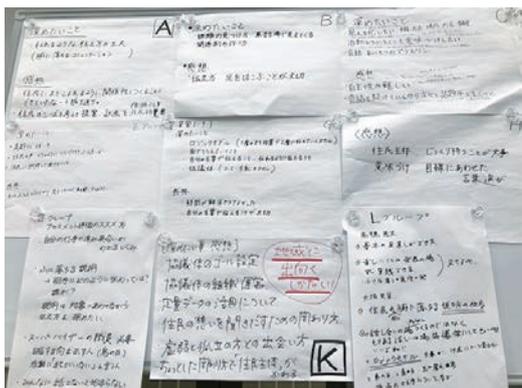
宮城県内外の生活支援コーディネーターと協議体の取り組みを発信

「産直まっちゃん」の取り組み(本紙2頁関連記事)

令和4年度 宮城県生活支援コーディネーター養成研修【全体研修】を実施

宮城県生活支援コーディネーター養成研修において、8月～11月に実施した2コース(地域づくり推進コースおよび現状分析・課題解決コース)を振り返る全体研修を2月27日(月)にフォレスト仙台で開催し、県内から55人の参加がありました。

演習では、それぞれのコースで学んだ感想や気づき、これからの活動に活かしたいことを熱心に意見交換する姿が見られ、時間が足りないほどでした。「積極的に出かけて、地域をよく知りたい」「手段と目的を混同しない」「目的に向かって、住民や上司にわかりやすく自分の言葉で説明できるようになる」「データは発展的に考えてもらうものとして活用」「共通言語を使って目線合わせをすることが大事」「楽しく。主役は住民」などの意見が相次ぎました。休憩時間も会話が途切れないほど話が弾んでいて、「研修に参加することで自分の活動の振り返りになる」「オンラインではしにくい相づちや雑談ができるのが対面研修のよさ」という声もありました。



演習で出た意見



全体研修



## 気仙沼市

【けせんぬまし】人口59,662人、高齢化率39.5%（2022年3月末時点）。市内は204自治会、247行政区で構成され、16の地区社会福祉協議会を中心に地域活動を展開。地域支え合い推進員は、市社会福祉協議会に第1層（市全域）1人、第2層（16地区社協圏域）9人を配置。第2層協議体は、地区社協圏域ごとに開く地区懇談会を位置づけ、それぞれ地域支え合い推進員、地区社協、民生・児童委員、自治連・振興協議会、老人クラブ、ボランティア団体等で構成される。

# 地域発！ みやぎの 住民力

# 産直で介護予防！ 人も地域も元気に

## 産直まっちゃん（気仙沼市新月地区）

吉田律子さん…貴一さん  
の奥様。小物づくりなど、  
さまざまなことに挑戦！

菅原えり子さん…活動拠点であ  
る「元たばこ集荷作業所」の所  
有者。（株）菅原自動車の奥様

菅原まつ子さん…産直まっちゃん  
の代表。名称は、まつ子さんの愛  
称に由来。婦人会役員

小野寺泰治さん…東京からU  
ターンし、農業や門松づくりに挑  
戦。力仕事はお任せ

齋藤貴恵さん…新月地  
区を担当する地域支え  
合い推進員（市社協）



吉田勝彦さん…新月地区社  
協会長。「八瀬・森の学校」の  
事務局長でもある

佐藤正喜さん…奥様のカツ子さんとと  
もに、農業やしめ縄づくり等の“先生”として  
地元をリードしてきたレジェンド

吉田貴一さん…産直まっちゃんの事務局  
長。新月地区社協会計、民生委員。休耕  
田を活用して米や野菜を育てている

菅原幸男さん…県指定無形  
民俗文化財である「早稲谷  
鹿踊」保存会の事務局長

## 野菜販売で交流

「今度は菜花を育てて売ろう！」

「差し入れしてもらったスイートポ  
テトがおいしかったから、商品化で  
きないかしら」

「来年は、手づくりの門松やしめ縄  
を売るのはいかが？」

「縄づくりは、藁をぶって乾燥させ  
るのが難しいんだ」

各家自慢の干し柿とお茶菓子を囲  
んで、活発な意見交換をしているの

宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議が  
昨年12月に開催した「市町村情報交換会」で、  
気仙沼市社会福祉協議会の第2層地域支え合い推  
進員（＝生活支援コーディネーター）が話題提供  
した、高齢者による産直グループの活動に注目が  
集まりました。そこで今号は、この「産直まっ  
ちゃん」の取り組みをご紹介します。

は、「産直まっちゃん」のメンバーたち。60歳代から89歳までの男女8人です。気仙沼市新月地区にある早稲谷地区で、2021年11月に発足しました。

人とのふれあいと生きがいづくりを目指して、10〜12月に産直を開いています。それぞれが育てた野菜を各ブースで販売。利益は各自に入りますが、そもそも売るのは二次なので、値段設定はお手頃です。

産直まっちゃんの事務局長、吉田貴一さんは、「新月地区社協が主催したフレイル予防講座と住民座談会をきっかけに、有志で話し合いをもったのが始まり」と話します。

「気の合う人を誘ったわけではなく、趣旨に賛同した人たちが集まった。だから金儲けが目的の人はいないし、みんなで楽しんで無理なく活動ができています」(吉田さん)。

## 産直で「社会参加」

早稲谷地区は、気仙沼市の内陸・中山間地に位置し、住民の多くが農業に関わっている地域特性があります。

当時、自治会長だった吉田さんは、コロナ禍で人と人のつながりが途切れがちな状況に危機感もち、

早稲谷に伝わる鹿踊りは、背中に竹を削って結束した3m以上の2本のササラが特徴



会議はいつもお茶会



新月地区社協主催のフレイル予防講座&住民座談会



何をすべきか思いをめぐらせていました。そんなとき、地元の農業リーダーである佐藤正喜さん夫妻から、「育てている野菜を、自家消費だけでなく、売って交流したらどうか」という提案がありました。新月地区担当の地域支え合い推進員である齋藤貴恵さんの協力を得て、活動内容を約4か月かけて検討し、目標を次のように決めました——「野菜づくりの経験を活かしながら、人とふれあい、社会参加をする。それが、生きがい健康づくり、支え合ってみなで笑顔になろう」。

加え、地域の役職も務めるメンバーの皆さん。忙しい日々ですが、小学生向けに農業・食育体験を行っています。仙台市から来た中学生とさつまいもの苗を植えた際は、初めて軽トラックに乗車できたと喜び子どもたちの姿に、こんなささいなことが楽しいのかという気づきがあったと言います。

活動拠点は無償でお借りすることができ、野菜販売の知識のある人の力を借りて、市内の高台にある高齢者の多い地域で、お試しの移動販売を実施しました。手探りのなか、初めての野菜販売には多くの来客があり、大成功。自信をつけて、正式な会の発足につながりました。

メンバーは、産直以外でも日常にお互いを気にかけて合い、地域の今後について夢を語り合っています。「準備はたいへんだけど、予定があるっていいね」「お客さんとの交流が楽しい」「冬場は体力づくりをしながら春の活動に備えよう」と話は尽きません。新年度は、「年間計画の立案」と「他地域の産直視察と交流」を目標にしています。

翌年は、資源回収をして得た資金で、地元紙に産直開催の新聞広告を出し、燻炭づくりやフェスタへの出店に挑戦しました。

フレイル予防に取り組もうと考えて、介護予防体操ではなく「産直」という発想が生まれたのは、まさに早稲谷地区の地域性です。人と交わりながら役割と生きがいをもつ暮らし方は、個人の健康寿命はもちろんのこと、仲間の健康寿命を高め、地域全体の元気を育むことを、産直まっちゃんの実践が証明しています。

## 地域で夢を語る

日頃は、農業や林業、獣害対策に

す。

## 県内3会場の情報交換会開催（12月15、16、21日）

県地域支え合い・生活支援推進連絡会議では、昨年12月15、16、21日に、県南、仙台、県北の3会場で「市町村情報交換会」を開催。生活支援コーディネーターや行政の生活支援体制整備事業の担当者ら計108人が参加しました。

各会場の参加者は5、6人ずつのグループに分かれ、「地域づくりの成功事例」「コ



県北会場での情報交換会（登米市迫町、2022年12月21日）

ナ禍の取り組み・発見」「現在の注力事項」といったテーマごとに活動状況を報告。連絡会議のアドバイザーらも交えて意見・感想を述べ合い、締めくくりにその内容を発表しました。

オンラインで行われた前年度と違い、コロナ対策を徹底した対面方式。予定された2時間があったという間に感じられるほど、話し合いは活況を呈しました。

3会場のうち最も多い46人が参加した県北会場（登米市迫町）では、気仙沼市社会福祉協議会の第2層地域支え合い推進員（＝生活支援コーディネーター）が、フレイル予防の学習会をきっかけに、高齢者が産直グループを結成したエピソードを披露（2-3頁に関連記事）し、高い関心を集めていました。

まちづくり短信

宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議事務局  
（宮城県社会福祉協議会）  
〈2022年12月-2023年2月期〉



## 地域別情報交換会の設置・定例化を目指して

県地域支え合い・生活支援推進連絡会議事務局では、上述の県内3圏域よりも小さなエリアで、生活支援コーディネーター同士が日常的に情報交換し研鑽できる場の設置・定例化を目指しています。これは、市町村等を訪問するなかで「近隣市町村との情報交換の機会をもちたい」「コロナ禍で近隣市町村との関わりが減少している」という声が多く聞かれたことや、すでに立ち上がっている仙塩地区（3市3町）および石巻圏域（3市2町）での自主的情報交換会が特にコロナ禍で有意義に働き、互いの活動を支える場となったことが背景にあります。

2022年度は、県南東部2市2町（名取市・岩沼市・亘理町・山元町）および県北西部2町1村（色麻町・加美町・大衡村）を重点エリアに設定し、県南東部は1月18日（水）に、県北西部は1月23日（月）に第1回目を開きました。それぞれの生活支援コーディネーターの活動状況や力を入れていることなどについて意見交換をし、今後も継続して開催していく方向となりました。地域別情報交換会の立ち上げにあたり、事務局では市町村担当者に事前説明に回り、開催後も報告をして、生活支援コーディネーターが動きやすい環境づくりをサポートしています。これをきっかけにコーディネーター間がつながり、新たな取り組みが生まれることへの期待も寄せられています。



県南東部生活支援コーディネーター地域別情報交換会



県北西部生活支援コーディネーター地域別情報交換会

問い合わせや情報提供はお気軽に事務局まで 電話022-266-2621 担当:佐藤正、菱沼菜

住み慣れた地域で暮らし続けるためのお宝探し情報紙

Miyagi まちづくりと地域支え合いvol.41

バックナンバーがホームページで読めます <http://www.clc-japan.com/sasaeai/m/>

発行日 2023年2月28日

発行 宮城県保健福祉部長寿社会政策課

編集 特定非営利活動法人全国コミュニティライフサポートセンター（CLC）